

中央大学国際経営学部 見学調査報告書

調査テーマ	NHK 国際ニュースはどのように作られているのか
調査日	2019年12月4日(水)13:00~15:30
調査先	NHK 渋谷放送センター・国際放送局
担当教員身分・氏名	教授 木村有里
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1年生23人
調査趣旨・目的	<p>2019年は「NHKをぶっ潰す!」という政党が話題となり、テレビを見ない若者を中心に支持が広がったという。そこで、あらためて日本国民が独自の「公共放送」を持っているということの意義を、「国際的」な見地から考えてみたい。NHK WORLD-JAPAN のニュースがどのように作られているのか、海外特派員経験者の方々とのディスカッションも交えて学ぶ。</p>
調査結果	<p>まず、NHK 広報局吉岡淳平氏(米・中両国で特派員を経験)より、放送と通信の違い、受信料制度について、日本と世界の放送の仕組み、NHK と他国放送局(BBC や CNN など)との比較などクイズを交えて分かり易くご説明いただいた。特に、ネット上の1行ニュースやSNSからの情報に頼りがちな若者たちに対して、フィルターバブル(自分が見たい情報しか見えなくなる事)について解説いただき、確固たる取材に基づいて制作されるニュースを見ることの大切さを教えていただいた。</p> <p>次に、NHK 国際放送の制作スタジオから、実際のニュース送出の様子を見学させていただいたのだが、ここで、「アフガニスタンで日本人医師が銃撃される」という一報が飛び込んでくる。スタジオ内の空気が一変し、いっきに緊張感を増し、怒号が飛び交う。そして、その7分後には第一報のアナウンス原稿が完成し、15分後にはスタジオから生放送で「アフガニスタンで中村哲医師が銃撃を受け負傷し、病院で手当てをうけている」というニュースが届けられるという現場に立ち会うことができた。(緊急事態にもかかわらず、見学を続行させていただきました、NHKの皆様には感謝です。中村医師の死亡、中村医師の功績について、学生たちはその後に関心することになり、あの瞬間がどれほど重大であったか認識しました。)</p> <p>NHK 国際報道局デスク・前ロンドン支局長の税所玲子氏から、この15分間でどのような判断、作業が行われたのか直ちに解説いただいた。そのほか、事前学習を通じて学生から寄せられた質問に対して、ひとつひとつ回答いただいた。例えば、「国際的」な仕事に求められるスキル、多文化組織内での仕事の留意点、学部での学びと職業選択の関係などキャリアに関連する質問。あるいは、NHK 国際報道局として、現在の世界情勢をどのように見ているのか、イギリスのEU離脱</p>

について前ロンドン支局長はどのように考えるか、など国際情勢に関する質問もあった。

学生たちの国際報道に対する興味関心の高さと、報道・公共放送の意義を若者に伝えようとするNHK関係各位の熱意がシンクロして、大変に意義ある企業訪問となった。



国際報道局デスクから「この15分間で何が行われたのか」を生解説いただくという貴重な機会に



税所玲子さんは国際的に活躍する女性のロールモデル、女子学生たちも真剣に耳を傾けます



集合写真を一枚



NHK マスコットどーもくと記念撮影 (放送センター内は撮影禁止のため外観のみ)